

# 白河の翼奇

## 第 76 号

令和4年12月31日

発行人：支部長 栗林正樹

※題字：白川仁一先生

※印刷：さとう総合印刷

### 「早くコロナ禍前に」

西白河副支部長 大戸 祐一



退職校長会との関わりを振り返ってみたいと思う。退職後、庶務として3年間、親睦旅行の担当理事として2年間、副支部長として4年間、退職校長会に関わり9年間になる。

当初はこのように長きにわたり運営に関わるとは考えていなかった。

この9年を思い起こしたとき、4代に渡る支部長（星輝夫支部長、関根直次支部長、福島俊男支部長、栗林正樹支部長）のもとで、それぞれの支部長さんと共に、米寿（88歳）や珍寿（95歳）、白寿（99歳）の長寿のお祝いの訪問をしたこともあったし、毎年多くの会員の参加を得た事業も行ってきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まり、退職校長会のほとんどの事業が中止となり3年を経過しようとしている。本年度も実施できた事業は、要望活動と広報誌の発行、米寿等のお祝いの訪問だけであった。

コロナ禍以前の退職校長会の事業には、年4回大きな事業があり、それぞれの事業で多くの会員や来賓、現職校長先生にご出席をいただきながら実施してきた。

4月には、総会が実施され、コロナ禍前の令和元年には、来賓や会員60名余りが参加して、総会に引き続き、懇親会の中では酒を酌み交わしながら、親睦を深め、旧交を温める良い機会となっていた。

7月には、現職の校長先生との交流会を実施し、令和元年には現職の校長先生方と退職校長70名余りにご参加いただき、学校現場の現状を知る貴重な機会となった。

10月には、親睦旅行を実施し、毎年民間旅行業者の1泊2日のプラン、中山道・妻籠宿・

馬籠の旅、信州上田城址・小布施北斎館の旅、釜石大観音・鉄の歴史館・三陸鉄道乗車の旅等に、20名余りが参加し、宿では夜遅くまで話が尽きなかった。

12月には、春・秋の叙勲者、高齢者叙勲者の瑞宝双光章受章をお祝いする会として叙勲祝賀会を開催し、令和元年には来賓・受章者・会員50名余りにご列席いただいた。

もうそろそろコロナのパンデミックが終息し、以前のように退職校長会の事業が多くに参加者を得て行われ、会員が親睦を深めるとともに、自由に旅行等ができるようになることを願うばかりだ。

ところで、6月半ばコロナ感染者数が減少し、東京に行く用もあり、以前から訪れたいと思っていたアーティゾン美術館（旧ブリジストン美術館）に行ってみた。東京駅八重洲口からほど近くの新築の高層ビルの1～6階が美術館となっていた。スペインの同時代のピカソとミロの版画が展示教育企画として開催され、印象派のルノワール、モネ、ゴッホ等や、日本の近代の洋画家黒田清輝、青木繁等の作品も見ることができた。その中に白河出身の関根正二の作品があった。

関根正二（1899～1919）は二科展で樗牛賞を受け、将来を嘱望されたが20歳の若さで夭折した。

アーティゾン美術館では、多くの作品が写真撮影NGではなかったのが関根正二の作品も撮影してきた。



「子供」（1919年）

《おめでとうございます》

この度、石川隆夫先生、星桂太郎先生が全国連合退職校長会より「賀詞」（満88歳）を受けられました。

また、瑞宝双光章も受章（叙勲）されております。心からお祝い申し上げます。

これからも健康に留意され、たくさんのご指導をいただけますようお願い申し上げます。



石川隆夫先生



星桂太郎先生

石川隆夫先生

瑞宝双光章受章おめでとうございます

太田 雅信

石川隆夫先生のこの度の叙勲受章、心よりお祝い申し上げます。

石川校長先生とご一緒したのはもう30年以上も前、片貝小学校でした。経験の浅い教職員の学校でしたが、みんな一生懸命に取り組んでいたことを思い出します。当時のへき地の勤務は大変でした。特に若い先生には、地域での毎日の生活は不安だったろうと思っています。その様な学校に赴任していらっしゃったのが石川校長先生でした。よくお話をしてくださいました。職員室で私と教務主任の前に腰をかけて、これまで取り組んできたこと、白河の昔のこと、電気工事のことなどなど、とにかく元気な声で話しかけていただきました。私たちだけでなく、先生方にも言葉をよく掛けていました。そのことで校長先生の目指していた、先生方が自信を持って明るく取り組める学校が創られていった様に思います。

結局、私がご一緒できたのは、4ヶ月程になってしまいました。私の途中人事があったためです。その折、地域の不満の声に「本人のためだから」と説得していただいたことは忘れられないことの一つです。

その後も、折に触れ言葉を掛けていただき、ご教示いただいたこと本当にありがたく思っています。先生には短い間でしたがたくさんのお話を学ばせていただきました。

先生、どうかお体に気をつけて、これからもお元気で私たちをご指導いただきますようお願い申し上げます。

星桂太郎先生米壽・瑞宝双光章受章

誠におめでとうございます

栗林 正樹

星桂太郎先生のお宅に関根副支部長と二人で訪問し、米壽の賀詞状と支部からのお祝いを贈呈して参りました。

星先生は教諭時代には福島県教育委員会指導委員に任命されました。また、中教研社会科部会では「校長となっても部会に出席し若い部員と一緒に懇親会でも楽しく歓談して下さり、当時の若い部員は皆ありがたいと思っていました」と益子朗先生は話していました。

先生は平成5、6年度定年前に中島中学校長として文武両道の生徒の育成に努められ、全教職員が熱心に指導しました。

その結果、郡市中体連ではバレーボール男女1位3位、ソフトボール2位、卓球男子団体2位男女個人1位2位、野球3位、陸上競技でも県大会個人3位、駅伝では郡市大会男女入賞など、県英語レシテーションスピーチコンテスト1位4位、その他吹奏楽、書道、作文、美術等々多くの成果を挙げたのでした。

ご自宅にはユング派臨床心理の第一人者河合隼雄の本がたくさんありました。先生は「東西白河の学校等を巡回し教育相談に応じたことはとても勉強になった」と話して下さいました。定年退職後、福島県巡回面接教育相談員2年福島県学校教育相談員を2年計4年間、河合隼雄の本で自ら研修しながら相談活動に当たっておられたことに敬服いたしました。

星先生ご夫妻は病院通いをしながらも、お元気に過ごされています。さらなるご長寿をお祈りいたします。

### 「笑顔色」の学校に

#### 大信小学校長 金子 秀則



「大信小、た～のしい～!」「友達が増えて、うれしいで～す!」学校が統合したばかりの4月、たくさん子どもたちが、私との会話の中で、そう話してくれました。最初の校長として、これ以上ありがたい言葉はありません。教職員

や保護者といった大人たちの不安と心配をよそに、学校の主役である子どもたちは、最高のスタートを切りました。

令和4年4月1日、信夫第一小学校、信夫第二小学校、大屋小学校が統合し、大信小学校が新たに誕生しました。開校にあたり、とても素敵な校歌を作ってくださったのは、大信の先輩である、シンガーソングライターのYummyさん。子どもたちがすぐに大好きになった校歌の歌詞は、次の通りです（メロディーは、ぜひ大信小のホームページからお聴きください）。

新しい朝に咲く 色とりどりの花たち  
露のしずくきらめく 今日の希望みたいだ  
川の音や風のおい 歌声が聞こえる  
みんなで歩くこの道 笑顔色に  
さぁここからはじめよう 大信小学校

~~~~~  
黒板に描く夢 机の上に広げて  
大切に育てよう これからの毎日を  
心の中に生まれた 光を見つめて  
うれしいこと悲しいことみんなで分け合おう  
思いやりを集めよう 大信小学校

~~~~~  
どこまでも続く空 豊かに実る大地  
いつまでも変わらない 私たちのふるさと  
やさしさという強さで 包んでくれる  
かさねた手のぬくもりを 忘れないで  
さぁ未来に繋げよう 大信小学校

私も、この校歌がすぐに大好きになりました。校長室だよりは、「笑顔色」と名づけました。そして、繰り返し聴いているうちに、後輩たちが学ぶ新しい学校に託した先輩の思いに心動かされ、大信小を校歌に描かれたような学校にしたいと思うようになりました。

学校で最も大切な場所は学級であり、最も大切な時間は授業です。統合初年度の現職教育における研究主題は、「かかわり合い、学び合う子どもの育成 ～統合校における、融和を目指した学級づくりと授業づくり～」としました。授業研究会では先生方が意欲的に学び合い、毎

日の実践を大切にすることで、うれしいことも悲しいこともみんなで分け合える学級と授業の具現に努めてきました。

運動会では、統合による新設校ならではの試みに挑戦しました。入場は、校歌に合わせて振りをつけながら行進することで、一つのパフォーマンスとなるようにしました。全校ダンスは、その楽曲にYOASOBIの「ツバメ」を選び、上級生の親ツバメが下級生の子ツバメを優しくリードしながら表現する姿を縦割り班ごとに披露しました。最終種目の全校リレーは、160人を超える子どもたちが4チームに分かれ、力強い走り心強い応援によって会場を大いに盛り上げました。コロナ禍にあつて、手を重ねることはできませんでしたが、仲間の優しさと強さ、心の温もりが忘れられない行事となりました。

学習発表会では、音楽を演目の中心に据え、普段の授業での学習の成果を無理のないように発表できるようにしました。コロナ対策のため、保護者の鑑賞は学年ごとの入れ替えとしたのですが、「他の学年の発表も見てみたい」という要望に応え、体育館での様子をライブ配信によって別教室で視聴できるようにしました。また、子どもたちのタブレット端末を活用して、発表を録画した動画を事後に家庭でも見られるようにしました。色とりどりの子どもたちによる希望に満ちた歌声や演奏、先生方の工夫と努力によって、会場だけでなく、会場に来られなかった方々が後日視聴した家庭も、笑顔色になったことでしょう。

4月から、無我夢中で学校経営に取り組んでまいりましたが、学校中をいつまでも笑顔色にすることが、私の願いです。何よりも子どもたちのために、先生方と力を合わせながら、今後ますます努力してまいります。

さぁここからはじめよう、大信小学校。

### 「統合・閉校は新たな歴史のスタート」

#### 五箇中学校長 小林 敏史



本校は、昭和22年4月25日、五箇小学校の一部を借用し西白河郡五箇村中学校として205名の生徒とともにその歩みを始めました。その5年後の昭和27年12月10日、現在の結城館地内に中学校としての校舎が建設され、昭和30年3月1日、白河市との合併をもって白河市立五箇中学校となりました。その後、歴代校長先生を始め教職員、保護者、関係機関はもちろん、何よりも地域住民の方々の尽力により、子どもたち

の学びの環境整備が進められてきました。昭和61年には、五箇地区・関辺地区統合中学校建設促進協議会が立ち上がりましたが、両地区住民での話し合いの結果合意に至らず、統合中学校建設は見送りとなりました。その後、五箇地区のみで新校舎建設を進めることを市に請願し、平成8年に現在の校舎が完成し、創立50周年の平成9年に新築落成記念式典を挙りました。新校舎は、当時では全国でもあまり例を見ない教科教室型の作りになっており、教育関係者が視察のために多数訪れたとのこと。しかしながら、少子化の波はこの歴史ある五箇中学校にも大きく影響し、残念ながら令和5年度末をもって白河中央中学校と統合し、77年の歴史に幕を閉じることとなりました。

残り2年となった今年は生徒数は2年生17名、3年生5名、計22名です。1年生は2年後の統合を視野に、統合先である白河中央中学校への入学を選択しました。入学式も行われず寂しいスタートでしたが、今では生徒、保護者、教職員が一致団結して「あと2年で最高の思い出づくりをしよう」「五箇中学校の歴史を背負って、立派に成長していこう」という、前向きな意識と取り組みに変わってきています。

その1つが本校の文化祭である「結城祭」です。明治22年に五箇村が行政区として誕生した際に、この地が「結城館」と命名されました。実際に「館」が存在した形跡はないのですが、古代から多くの「館」が築かれ、この白河地方の中心として栄えきたのだという誇りからこの地名になったと聞いています。本校でもその名を冠して「結城祭」という名称で文化祭を行っています。前述のとおり全校生徒が22名という小さな学校ではありますが、英語弁論、意見文発表、総合学習の実践発表はもちろん、各学年の思い思いのステージ発表や全校合唱と、規模の大きな学校に劣らない素晴らしい文化祭となりました。特に3年生のステージ発表には、自分たちの3年間の思い出を振り返りながら、次のステップに力強く踏み出そうという思いが込められており、参観者から大きな拍手をいただきました。



<令和4年度「結城祭」>

また保護者の皆さんも「五箇中ファイナルプロジェクト」と称して、現在在籍する生徒一人

一人の夢や願いを叶える思い出作りを親子行事として企画するとともに、閉校に向けて、学校主体の「閉校記念セレモニー」を行う準備を進めています。

統合・閉校は「区切り」であり、「終わり」ではありません。本校を巣立つ子どもたちの新たな歴史が「始まる」という意識を常に持ち続け、子どもたちが「私たちは五箇中で学んだのだ。」という誇りを胸に、強くたくましく生き抜いていくことを願い、残された時間をともに歩んでいこうと思います。

### 「福田利家先生のエイジシュート」

OBSMゴルフクラブ事務局 福島 俊男

OBSM ゴルフクラブ最高齢（87歳）会員の福田利家先生が7月5日白河ゴルフ倶楽部で行われた第195回コンペにおいて



グロス84で見事エイジシュート（年齢以下のスコア）を達成されました。直近のスコアは80台後半から90台前半を出していましたが時間の問題だと思っていたほどです。本当におめでとうございます。さらになんと8月のコンペでも86のスコアで2ヶ月連続の記録で素晴らしいゴルフをされています。私の記憶では、OBSMのコンペでエイジシュートを達成した会員第一号だと思われます。安定されておられるのでこれからも度々エイジシュートのスコアを出されることでしょう。

先生は、ご退職後62歳からゴルフを始められ翌年に「ホールインワン（一打目で直接カップインすること）を達成し『いつかエイジシュートを達成したい』と思っていたので本当に嬉しい」とお話されておりました。又、健康のためこれからもゴルフを楽しみたいとおっしゃっていました。これからもお元気でゴルフを楽しんで頂きたいと思います。

私達会員も先生を目標に健康の維持増進と退職校長会の活動を盛り上げるため、ともにゴルフを楽しんでいきたいと思っています。

### 《編集後記》

サッカーワールドカップ、日本チームの活躍で日本中が大いに盛り上がり、戦争やコロナ禍で落ち込む空気感の中、久しぶりに元気をもらいました。来年は活気に満ちた良い年になりますように。

広報係